



クイロイロのクイロイロ



博物館に
行ってみよう!

もっと知りたい!
千葉のおもしろ
博物館

第18回

国立歴史民俗博物館(佐倉市)

第1展示室「ナウマンゾウ生体復元模型」

インタビュー
“中の人”に
聞いてみました

先史から現代まで。日本の歴史と文化をテーマに展示する博物館

国立歴史民俗博物館は「歴史学・考古学・民俗学」の3つの分野を展示の柱としています。総合展示では日本列島に人類が暮らし始めた数万年前から1970年代までの日本の歴史と文化について紹介しています。館内には、時代やテーマごとに6つに分けられた展示室があり、それぞれの時代ごとに、当時の人々の暮らしや村、町の様子、生活用品や食べ物のサンプルなどが展示され、長い歴史の中で、人々がどのような暮らしをして、どのような文化を築いてきたのかを理解できるようになっています。

展示室では、さまざまな実物資料や複製品、当時の家屋等を原寸大で復元した模型や、町並みと人を再現した大型のジオラマも数多く展示しており、長い時間足を止めて、各時代の人々の暮らしを興味深く眺められる方も多くいらっしゃいます。

日本最大規模の博物館ですので、展示物の数はとにかく膨大で、なかなか1回のご来館で全部をくまなく見るというのは難しいかもしれません。そのため、ご自分なりにテーマを決めると、効率が良く、そしてより深く見ることができます。例えば、“今回は「生活道具」”と意識して回ると、時代ごとの道具の種類や使い方を通して当時の苦労や楽しみ、祭りの様子にも興味がつながります。そして次回ご来館の際には、「衣服」や「食べ物」といった違うテーマで回ると、その都度新しい発見もあり、何度もお楽しみいただけます。

また、館内から望む佐倉城址の四季折々の自然も素晴らしいので、季節ごとにぜひいらっしゃってください。

国立歴史民俗博物館 広報課 石渡 芳樹さん

国立歴史民俗博物館とは？



佐倉市の佐倉城址にある、日本の歴史と文化について研究・展示する博物館です。

開館は1983年。先史・古代から現代まで時代ごとに6つの展示室があり、復元模型や精密なジオラマによる町並みの再現など、立体的な資料で歴史と文化を学ぶことができます。

東福寺三門模型

エントランスホールに展示されている東福寺三門の1/10模型。とても精巧に作られていて、内部の構造までよくわかる分割模型です。東福寺は京都市にあり、三門は国宝に指定されています。

第1展示室、「多様な縄文列島」コーナー



時代ごとに6つの展示室 詳細なジオラマも見どころ

国立歴史民俗博物館の総合展示は「先史・古代」「中世」「近世」「民俗」「近代」「現代」の6つの展示室に分かれています。さまざまな資料や精密な複製品、迫力のある復元模型などを通して、先史・古代から現代に至るまでの歴史に触れることができます。

人々が日本列島で暮らし始めた旧石器時代から、平安時代に至るまでを展示する第1展示室では、最終氷期に日本に生息したナウマンゾウの実物大模型がお出迎え（表紙参照）。約4万年前の南関東の風景と合わせて展示されています。

第3展示室には「寺子屋」を体験できるコーナーがあり、くずし字を書いたり、すごろくで遊んだり、ボランティアスタッフと江戸の学びを体験できます。

2026年3月に約30年ぶりにリニューアルされた「近代」がテーマの第5展示室は、「〈国民〉の誕生」「近代化する人びとのくらしと仕事」「〈帝国〉日本の社会と人びと」という3つのテーマで展示します。浅草の街並実物大再現模型も見どころです。



「プロローグ」。現代から過去へと時代をさかのぼっていきます。最後の先史・古代まで進むと、「第1展示室 先史・古代」の始まりになっています。

食べ物をテーマに巡る

先史から現代、その各時代に人々はどんな物を食べてきたのか。「食べ物」の変化を見ていくことで、当時の生活や経済状況などの変化も見えてきます。

館内ではどんぐりを食べていた先史から、現代までの食の歴史が網羅されており、時代ごとのお膳を再現し、展示しています。また「民俗」を扱う第4展示室では、デパートで売られていたおせち料理の複製などの展示も見ることができます。



▲第1展示室、「最終氷期に生きた人々」コーナーにある「石蒸し調理復元模型」。食料を葉で包み、蒸し焼きにしている様子です。



▲第3展示室、「国際社会のなかの近世日本」コーナーの「俵物」。俵に詰められた、昆布など中国輸出用の海産物です。江戸時代後半の代表的な輸出品です。



▲第1展示室、「水田稲作のはじまり」コーナーの「水田稲作の拡散」。九州北部から水田稲作がひろがっていく様子。土器は食料の保存や調理にも使用していました。



▲第6展示室、「戦争と平和」コーナーの「兵舎内での食事 再現」。昭和初期、まだ戦争が始まっていないころの兵士の食事を再現した展示です。



◀1970年代前半の学校給食。

▶1950年代の学校給食。

▲第6展示室、「戦後の生活革命」コーナーにある年別の学校給食です。脱脂粉乳やクジラの竜田揚げが出ていた時代もありました。

すごい!この展示物を見逃すな!

京都の町並 復元模型

これ見て!



第2展示室「京都の町並 復元模型」



第2展示室にはとても鮮やかな屏風が展示されています。国立歴史民俗博物館が所蔵する洛中洛外図屏風(歴博甲本)は、將軍足利義晴のために作られた御所が描かれていることなどから、1525年頃の製作と考えられています。

そしてこの見事な作品の前には、京都の町並みが再現されたジオラマ「京都の町並 復元模型」が展示されています。展示されている資料などを元に、戦国時代末期頃の京都四条室町付近の町並みをイメージして作られました。

ジオラマの町並みの



第2展示室「洛中洛外図屏風(歴博甲本)」(複製)

中には当時の人々、物、町の様子が丁寧に作られています。配置された人形は、服装や持ち物、動作なども克明に再現されています。

洛中洛外図屏風に描かれている人の姿が写真で切り抜かれ、目の前のジオラマの中から「同じ人形を探してみよう」という楽しみも用意されています。人形を探すのに食い入るように見ていると、まるで当時の世界に入り込んだような感覚になってきます。

体験してみよう!

国立歴史民俗博物館には子どもから大人まで体験できるコーナーが常設されています。



【寺子屋「れきはく」】

第3展示室には、江戸時代の手習いを体験できるコーナーがあります。ボランティアスタッフが当時の文字の書き方や、すごろくでの遊び方を親切に教えてくれます。



【たいけんれきはく】

第6展示室の向かいの体験コーナーでは、江戸時代中期に確立した多色刷りの浮世絵木版画の「錦絵スタンプ」を体験できます。5色のスタンプを順に重ねて押していき、絵を完成させていきます。

「もっと知りたい! 千葉のおもしろ博物館」は、
今が最終号となりました。

2025年1月より毎月発行してきた冊子「もっと知りたい! 千葉のおもしろ博物館」は、2026年6月の本号をもちまして、全18回の最終号を迎えることとなりました。第1回から1年半、毎月お読みいただいた多くの方々にお礼を申し上げますとともに、本冊子の制作にあたり、情報のご提供や取材、撮影などにご協力くださいました各関係機関や施設、関係者の皆さまに感謝を申し上げます。ありがとうございました。

ました。

2026年7月からは、新企画「ちばではたらく車たち」がスタートします。働く車にスポットを当て、千葉県内の街や工事現場などで見ることのできる働く車の紹介をし、その魅力をお届けいたします。どうぞご期待ください!

京葉銀行広報グループ・制作スタッフ一同

取材協力・撮影協力/国立歴史民俗博物館

2026.6(次回発行予定/2026年7月17日)

プラスαで、未来をとともに。
京葉銀行

ホームページでもご覧いただけます。
京葉銀行 情報誌 検索

LINE、Xからも「もっと知りたい! 千葉のおもしろ博物館」を配信しています。

LINE 公式アカウント
@keiyobk_official



X 公式アカウント
@keiyobkofficial



この冊子の印刷には、
環境に配慮した植物性インキを
使用しています。